



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

94.6. | No. 4002

国鉄闘争を水路とした 労働運動を創り出そう!

5/28 第32回定期委員会 成功勝ちとする!

五月二十八日、動労千葉第三二
回定期委員会が千葉市民会館で
行なわれた。

結合する職場生産点の闘いと

戦争国家体制粉砕の闘い!

定期委員会は、議長に服部委員(新小岩支部)を選出したあと、冒頭あいさつに起った布施副委員長は、「第三一回定期委員会以降、貨物の二波のスト、一五周年記念レセプション、全国三六箇所での国鉄集会の成功、そして現在物販オルグで活動を展開している状況にある。情勢は朝鮮半島をめぐる、急ピッチで戦争準備体制が進んでいる。小沢の言う『普通の国』作りとは戦争の出来る国家を目指すものに他ならない。そして国鉄情勢も一体の動きの中にある。戦争は軍人だけがやるのではない。労働者を戦場へ導入する。労働者を駆り出す。本当の労働運動があれば戦争は出来ない。その意味でも、職場生産点の闘いが戦争国家体制との闘いと結合している。国鉄-JRをめぐる状況は、清算事業団闘争の解体が焦点となっている。国労の政策提言は、分割・民営化体制反対の旗を降ろすものであり、国労の旗を降ろすことに他ならない。われわれは原則的闘いを進めてきた。今日の問題の根源的などころに迫っていく闘いを職場を

基軸に大いなるうねりを作っていく」と訴えた。

経過報告・当面する方針等一括提起のあと質疑に入り――

※合理化問題

・貨物の「時短」提案は、日勤で三分、乗務員で一分の短縮などというものであり、「ゆとりある生活」には程遠い。拘束時間・労働時間の真の短縮を求めたい。

・一の宮派出の欠員状況、事務係の退職前提休職による後補充はどうなっているのか?又、次期ダイヤ改時における、「びゅう」の持ち分変更の噂がでているかどうか?

※運転保安

・四月一日付で「代用閉塞方式の廃止」が実施されたが、それが新小岩でわかったのが二〇日、関東支社にわたったのが二〇日だというのが実態だ。乗務員無線から列車無線への変更の時も一カ月以上たってからというように、全ての連絡が遅い。運転保安上から言っても大変な問題だ。

・六月一日から、土砂崩壊センサーが使用開始となっているが、誤動作が出た場合の取り扱いをどうするのか?支社の見解はどうなのか?又、津田沼の出入区の扱いだが、わからない場合は助役が添乗するが、昔経験した

んだからわかるだろうということが行なわれている。線見の基準等について求めていくべきだ。

※格差問題

・JR貨物の決算では二十七億の赤字だとしているが、輸送実績は九五%であり、数字的にも納得がいかない。又、「赤字」を理由とした格差は断じて認められない。

※出向問題

・JRは出向に出した者は人間じゃないという考え方だ。超勤手当が入っていないかったり、地域給の戻入問題が発生したりと原因は簡単な見落としであり、ないがしろにしているということだ。出向に出るとどういふことがあるか。規則に精通しないといけないと実感している。

※反戦闘争

・全国物販オルグで三回程行ったが、みな羽田第二次連立内閣が有事体制内閣であることを感じている。戦争へ駆り出されるのは労働者だ。六・一九へ全力決起していきたい。

等々の意見・質問が出され、中野委員長は総括答弁を含めてさらなる闘いへの意思統一がなされた。

各支部主催地域集会の成功を!

今夏今秋へ向けた闘いの基軸は、(1)、国労の政策提言が国労の旗を降ろすものであること。解雇撤回闘争が大きな岐路に立っていることを認識し、「政労使交渉」「政策提言運動」を打破すること。(2)、貨物動乗勤改



悪阻止、新たな一〇万人首切り合理化粉砕の闘いの焦点として一二・Xダイヤ改阻止へ向けた取り組みを強化すること。(3)、全国三六箇所の国鉄集会の成功を引き継ぐ、各支部主催による地域集会を、県内における動労千葉と共に闘う支援の輪の拡大へ向け、国鉄闘争を結集軸に、地域に闘う労働運動を創りあげていく意味において成功を勝ちとることです。

六・一九反戦全国集会へ起とう

われわれは、「朝鮮有事」をめぐって旋回する情勢に、真っ向から対決しうる新たな闘う労働運動の結集を創りあげよう! 六・一九反戦全国集会へ、全組合員は総決起しよう!